

## ○「創価大学グランドデザイン 2021-2030」の草案-2030年の創価大学のあるべき姿

### ■テーマ：

#### 「価値創造を実践する『世界市民』を育む大学」

本学は、創立者池田大作先生が示された「建学の精神」の理念の実現へ向けて、1971年の開学以来、不断の改革を継続し、発展を遂げてきた。2014年には、これまでの国際化の取り組みが評価され、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」に採択。事業最終年度である2023年度に向け、留学生の受入れや日本人学生の海外留学など、多様な価値観が集うキャンパスの実現を目指している。

一方、本学を取り巻く社会環境では、日本社会の18歳人口が長期にわたり減少し、2031年に100万人を下回ることが予測されている。また、AIやIoTなどの進展で産業構造が大きく転換し、創造性や他者との協働性、高度な専門性などの能力を身につけさせることが高等教育機関に求められている。さらに、高度情報化により、国や地域などの境界をたやすく越え、経済や教育、環境などの問題が地球規模に拡大する時代を迎えている。

2015年には国連が、2030年に向けた持続可能な開発のための目標「SDGs」を提唱し、「誰も置き去りにしない」という理念のもと、貧困に終止符を打ち、地球環境を保護し、全ての人々が平和と豊かさを享受できる社会の構築への取り組みを進めている。建学の精神に「平和」を掲げる本学でも、2014年に国連と世界の大学を結ぶ「国連アカデミック・インパクト」に加盟し、国連機関などと連携しながら、SDGsが目指す社会の構築のため、教育、研究、社会貢献の活動を実施している。

こうした本学の活動には、創立者が呼びかけられた「創造的人間であれ」との人材像がその背景にある。「すなわち、社会に必要な価値を創造し、健全な価値を提供し、あるいは還元していく」<sup>1</sup>人間であり、今日的には「価値創造を実践する世界市民」といえる。具体的には、SDGsが掲げる地球規模の問題に対して真摯に向き合い、「平和」という目的の実現に向けて、新たな価値を創造する「世界市民」を輩出することが本学の使命であることを確認したい。

創価教育100周年の2030年に向けた「新グランドデザイン」の根幹をなす、「価値創造を実践する世界市民」とは、貧困や環境、教育、紛争などの地球規模の課題であっても、「どんな困難な問題でも人間が引き起こしたものである限り、必ず解決することはできる」<sup>11</sup>との希望から出発し、他者と連携しながら未来を切り開くための力を有した人材である。こうした人材を輩出するための計画の柱として次の3点を掲げる。

- ① 平和・環境・開発・人権の分野を中心とした「世界市民教育」に関するプログラムの高度化をはじめ、持続可能な社会を構築するための能力を育む教育研究環境を整え、価値創造を実践する世界市民教育の拠点化を図る。
- ② 全学をあげて「平和」の実現に貢献する研究を推進するとともに、大学間および研究者ネットワークを形成し、SDGsの達成へ先導的役割を担う。
- ③ 海外からの留学生や社会人など、多様な価値観が集合し、共生するキャンパスを実現する。

この3点に基づき、「教育」「研究」「国際」「社会貢献・ステークホルダー連携」「組織運営」の各戦略を策定する。

## ■後注

---

- i 第3回創価大学入学式での創立者講演, 「創造的人間たれ」(1973年4月9日)
- ii 第44回SGIの日記念提言, 「平和と軍縮の新しき世紀を」(2019年1月26日)